



TITLE:

思考言語分野(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

松沢, 哲郎; 藤田, 和生; 友永, 雅己

CITATION:

松沢, 哲郎 ...[et al]. 思考言語分野(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報
1995, 25: 27-30

ISSUE DATE:

1995-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/164734>

RIGHT:

研究会(1995年1月, 犬山, 愛知). 講演要旨集, p.8.

- 16) 柳原芳美・松林清明・松沢哲郎(1994): ニホンザルにおける飼育環境のエンリッチメント: 給餌方法とケージ環境の検討. 第10回日本霊長類学会大会(1994年6月, 東京). 霊長類研究, 10: 161.
- 17) 柳原芳美・大沢秀行(1994): ニホンザルにおける劣位オスの交尾戦略. 日本動物行動学会第13回大会(1994年12月, 柏原, 大阪). 発表要旨集: p.43.
- 18) 柳原芳美・大沢秀行・清水慶子・後藤俊二(1994): 愛知県犬山市における野生化アライグマの生態: 予報. 日本哺乳類学会1994年度大会(1994年9月, 府中, 東京). 講演要旨集: p.75.

行動神経研究部門

思考言語分野

松沢哲郎・藤田和生・友永雅己

研究概要

A) チンパンジーの認知・言語機能の比較認知科学的研究

松沢哲郎・友永雅己・田中正之¹⁾
佐藤 明¹⁾・日上耕司²⁾

チンパンジーとヒトを対象に、認知・言語機能の比較研究をおこなった。色名文字や数の体系とその記憶、放飼場での社会的知能の研究などをおこなった。

B) 野生チンパンジーの道具使用と文化的変異

松沢哲郎

西アフリカのギニア・ボソウとコートジボワール・ニンバの野生チンパンジーを対象に、道具使用に見られる認知発達を研究し、文化的伝播の実体と機構について調査した。

C) 霊長類の錯視知覚に関する比較心理学的研究

藤田和生

アカゲザルとチンパンジーを対象に、ボンゾ錯視の知覚の分析をおこない、ヒトやハトと比較した。

D) スラウェシマカクの種の認知

藤田和生・渡辺邦夫³⁾

インドネシア・スラウェシ島北部において、2種のスラウェシマカクを対象に、近縁の種の写真に対する視覚的な好みを調べた。

E) チンパンジーにおけるヒトの顔の認知

友永雅己

チンパンジーに対し、ヒトのキメラ顔写真などを用いた見本合わせ課題を訓練し、相貌認知における倒立効果や視野差などについて検討した。

F) チンパンジーにおけるブライミング効果の検討

友永雅己

2試行が連続して出現する同時弁別課題において、正刺激、正答位置の二試行間での推移の確率を操作することによって、系列ブライミング効果を検討した。また、同種の単純弁別課題において、正刺激と負刺激の空間的關係の変化を操作することによって負のブライミング効果と復帰抑制について検討を行い、負のブライミング効果を検出した。

G) チンパンジーにおける初期知覚の比較知覚論的研究

友永雅己

チンパンジーとヒトの初期知覚の特性を比較知覚論的立場から検討することを目的として、テクスチャ弁別の非対称性、見本合わせ課題を利用した錯誤結合の検討、そして、視覚探索およびテクスチャ弁別課題を用いた陰影による形の知覚などを調べた。チンパンジーでは、ヒトとは異なり、縦方向の陰影よりも横方向の陰影がついた図形間の弁別の方が容易であった。

H) 霊長類における社会的相互作用の実験的分析

日上耕司

昨年度に続き、飼育チンパンジー集団を対象に、共同作業、競合-協同場面などにおける社会的相互作用の実験的分析をおこなった。

総 説

一和文一

- 1) 藤田和生(1994): 学習するチンパンジー. 科学技術ジャーナル, 3(5): 12-13.
- 2) 藤田和生(1994): マカカ属の種間で見られる同種への好み. 遺伝, 48(4): 35-41.

1) 大学院生 2) 研修員

3) ニホンザル野外観察施設助手

- 3) 藤田和生(1995): 行動実験における感覚性強化の利用について. 文部省科学研究費補助金・重点領域研究「認知・言語の成立」論文集, pp.179-187.
- 4) 金沢創(1995): 認知科学は, 本来的に比較研究を必要としている -D. マーの「計算論」の概念を用いて - 重点領域研究報告書「認知・言語の成立」, pp.188-194.
- 5) 松沢哲郎(1994): チンパンジーの教育と文化. 教育と情報, 436: 30-31.
- 6) 松沢哲郎(1994): ヒトとチンパンジーの認知発達検査. 久保田競(編) 発達と脳のメカニズム. ミネルヴァ書房, 1-20.
- 7) 松沢哲郎(1994): チンパンジーの研究は何の役に立つか. 発達, 57: 104-111.
- 8) 松沢哲郎(1994): チンパンジーの愛のかたち - ジェーン・グドール1994年. 発達, 58: 103-110.
- 9) 松沢哲郎(1994): チンパンジーの文化. 発達, 59: 105-109.
- 10) 松沢哲郎(1994): それぞれに「知的」な動物たち. 科学朝日, 54(10): 12-17.
- 11) 松沢哲郎(1994): 雲南のモンゴル族. 発達, 60: 104-110.
- 12) 田中正之(1995): ヒト以外の動物におけるカテゴリー化研究の新しい試み. 文部省科学研究費補助金・重点領域研究「認知・言語の成立」論文集, pp.195-205.
- 13) 友永雅己・田中正之(1995): 弁別と統合 - チンパンジーの視覚認知の諸相 - 人類学輯報, 52: 79-101.

論文

-英文-

- 1) Matsuzawa, T. (1994): Field experiments on use of stone tools by chimpanzees in the wild. In Wrangham, R. et al.(eds.), Chimpanzee Cultures. Harvard Univ. Press, 351-370.
- 2) Tomonaga, M. (1994): How laboratory-raised Japanese monkeys (*Macaca fuscata*) perceive rotated photographs of monkeys: Evidence for an inversion effect in face perception. Primates, 35: 155-165.
- 3) Tomonaga, M. (1995): Transfer of odd-item search performance in a chimpanzee (*Pan troglodytes*). Percept. Motor Skills, 80: 35-42.

- 4) Tomonaga, M. (1995): Visual search by chimpanzees (*Pan*): Assessment of controlling relations. J. Exp. Anal. Behav., 63: 175-186.
- 5) Tonooka, R. & Matsuzawa, T. (1995) Hand preferences of captive chimpanzees (*Pan troglodytes*) in simple reaching for food. Int. J. Primatol., 16: 17-35.

-和文-

- 1) 木下昌也・田中正之・太田裕彦(1995): チンパンジー(*Pan troglodytes*) のT型指迷路課題解決. 人類学輯報, 52: 71-78.
- 2) 外岡利佳子・井上徳子・松沢哲郎(1994): ボッソウの野性チンパンジーによる水飲みのための葉の道具使用: 野外実験と葉の選択性. 霊長類研究, 10: 95-104.
- 3) 柳原芳美・松林清明・松沢哲郎(1994): ニホンザルにおける飼育環境のエンリッチメント: 給餌方法とケージ環境の検討. 霊長類研究, 10: 95-104.

報告・その他

-英文-

- 1) Fujita, K.(1994): Review of K.R.Gibson & T.Ingold (Eds.), "Tools, language and cognition in human evolution." Cambridge University Press. (1993). Primates, 35(4): 523-525.

-和文-

- 1) 松沢哲郎(1994) パミール高原学術調査概要: フンザの社会変容1973-1993. ヒマラヤ学誌, 5: 3-15.
- 2) 松沢哲郎・成瀬哲生・池上哲司・辻本雅史(1994): 少数民族の文化的アイデンティティ: 中国雲南省の蒙古族の調査から. ヒマラヤ学誌, 5: 159-168.
- 3) 田中正之・松沢哲郎(1995): チンパンジーにおける情報統合. 文部省科学研究費補助金・重点領域研究「認知・言語の成立」報告書(2), pp. 111-112.
- 4) 友永雅己(1995): チンパンジーとことば. なぜなぜクラブ, 朝日小学生新聞3月31日号 (No. 8642): p.3.

学会発表等

-英文-

- 1) Fujita, K.(1994): Perception of a geometric illusion by chimpanzees and rhesus

macaques. XVth Congress of the International Primatological Society, Abstract: 71.

- 2) Fujita, K.(1995): Perception of a geometric illusions by pigeons, monkeys, and apes. The 18th International Symposium of Taniguchi Foundation, Division of Brain Sciences, "Emotion, memory and behavior - study of human and nonhuman primates -". Abstract: 18-19.
- 3) Kanazawa, S. (1994): Recognition of facial expressions in humans and a Japanese monkey, 15th Congress of the International Primatological Society, Kuta-Bali, Indonesia, August 1994
- 4) Matsuzawa, T. (1994): Chimpanzee intelligence in nature and in captivity: Isomorphism of symbol-use and tool-use. Paper presented at Wenner-Gren Foundation Symposium No. 118 "The Great Apes Revisited", held at Cabo San Lucas, Mexico, Nov. 12-19.
- 5) Tanaka, M. (1994): Recongnition of inter-object relationships in chimpanzees. The XVth International Congress of Primatology. Abstracts pp. 420.

—和文—

- 1) 藤田和生 (1994): ニホンザルの図形知覚—視覚探索を用いて—。第10回日本霊長類学会大会 (1994年6月, 上智大学)。霊長類研究, 10: 148.
- 2) 藤田和生 (1994): 霊長類におけるボンゾ錯視の知覚(2): 奥行き感と隙間の効果。第58回日本心理学会大会 (1994年10月, 日本大学)。発表論文集, p.578.
- 3) 日上耕司 (1994): チンパンジー放飼集団の飼育環境エンリッチメントの試み。第10回日本霊長類学会大会 (1994年6月, 上智大学)。霊長類研究, 10: 157.
- 4) 井上徳子・外岡利佳子・松沢哲郎 (1994): チンパンジー幼児におけるヤシの種子割り行動の発達。第10回日本霊長類学会大会 (1994年6月, 上智大学)。霊長類研究, 10: 157.
- 5) 金沢創 (1994): ニホンザルによるヒトの表情の認知—感覚性強化法を用いて—。第10回日本霊長類学会 (1994年6月, 上智大学)。霊長類研究, 10: 162.
- 6) 金沢創 (1994): サルはヒトの笑顔をどう見ているのか? 第58回日本心理学会 (1994年10月, 日本大学)。発表論文集。
- 7) 松沢哲郎 (1994): シンボルの共有と伝達。日本発達心理学会第5回大会。
- 8) 松沢哲郎 (1994): チンパンジーの認知発達とコミュニケーション。日本手話学会第20回大会。
- 9) 松沢哲郎・田中正之 (1994): ヒトとチンパンジーの指さしコミュニケーションの形成。日本発達心理学会第5回大会。
- 10) 松沢哲郎・山越言 (1994): コートジボワール・ニンバ山地の野生チンパンジー: 地上巢の発見。第10回日本霊長類学会大会 (1994年6月, 上智大学)。霊長類研究, 10: 131.
- 11) 田中正之 (1994): チンパンジーにおける物体間関係を手がかりとする見本合わせ学習。第10回日本霊長類学会大会 (1994年6月, 上智大学)。霊長類研究 10: 159.
- 12) 田中正之 (1994): チンパンジーにおける線画のカテゴリー化様式。日本心理学会第58回大会。発表論文集, pp. 651.
- 13) 田中正之 (1995): チンパンジーによる親近性に基づく分類。日本発達心理学会第6回大会。発表論文集, pp. 75.
- 14) 友永雅己 (1994): ニホンザルにおける相貌知覚 — 上下反転効果と既知性の効果 —。日本霊長類学会第10回大会 (1994年6月, 上智大学)。霊長類研究, 10: 161.
- 15) 友永雅己 (1994): チンパンジーの「こころ」をさぐる。犬山市立図書館「サル文庫」1周年記念講演 (1994年7月, 犬山市)。
- 16) 友永雅己 (1994): チンパンジーにおける探索非対称性(I) — 複合幾何図形を用いて —。日本動物心理学会第54回大会 (1994年8月, 北海道大学)。動物心理学研究, 44: 53.
- 17) 友永雅己 (1994): 霊長類とヒトの知覚・認知系の「比較」。日本動物心理学会第54回大会シンポジウム「動物とヒトの行動の実験的研究: 認知・言語を中心に」(1994年8月, 北海道大学)。
- 18) 友永雅己 (1994): チンパンジーにおける探

索非対称性(II): 傾斜線分は垂直線分からポップアウトするか? 日本心理学会第58回大会(1994年10月, 日本大学). 発表論文集, p.590.

- 19) 外岡利佳子・山越言・松沢哲郎 (1994): ボッソウの野生チンパンジーにおける石器使用の野外実験: コウラの実に似た木製ボールの提示. 第10回日本霊長類学会大会(1994年6月, 上智大学). 霊長類研究, 10: 131.
- 20) 柳原芳美・松林清明・松沢哲郎 (1994): ニホンザルにおける飼育環境のエンリッチメント: 給餌方法とケージ環境の検討. 第10回日本霊長類学会大会(1994年6月, 上智大学). 霊長類研究, 10: 161.

認知学習分野

小嶋祥三・正高信男・中村克樹・南雲純治

研究概要

A) 老齢ニホンザルの認知機能に関する研究

小嶋祥三・中村克樹

物体および位置弁別の連続逆転、複式物体弁別を検討した。物体連続弁別逆転と複式物体弁別では、若年のサルに比較して、老齢ザルの成績が劣っていたが、位置弁別の逆転課題では差はみられなかった。

B) チンパンジーの聴覚と音声に関する研究

小嶋祥三・揚妻直樹・岡本暁子

別の居室で夜を過ごす2群のチンパンジーを解放飼場で出会わせ、その時生じる音声を含む社会的交渉を検討した。個体の交換などの実験的操作を行い、その効果を検討した。

C) 霊長類のコミュニケーションの比較行動学的研究

正高信男

ヒトを含む様々な種の音声、視覚コミュニケーションの比較研究を行っている。

D) サル大脳皮質における情報伝達様式の研究

中村克樹・澤口俊之¹⁾

サル大脳皮質における電気情報の伝達様式を調べる目的で、スライス標本に与えた電気刺激の伝播を光学測定法を用いて測定した。本年度は特にマカクザル前頭連合野主溝領域(46野)に注目して調べた。刺激は主に皮質に垂直に伝播した。

これは解剖学的に示唆されているコラム(柱状)構造に対応すると考えられる。

E) 霊長類行動実験用システムの開発

南雲純治

NEC-98系およびIBM-PC/AT系パソコン上で動作する入出力制御付き汎用割り込みタイマの作成を行った。

総説

一和文一

- 1) 正高信男 (1994) : サルは言葉をしゃべっているか。日経サイエンス、10月号: 18-23.
- 2) 小嶋祥三 (1994) : 何が音声言語を可能にしたのか。日経サイエンス、10月号: 26-31.
- 3) 小嶋祥三 (1994) : ヒトとチンパンジーの音声発達。発達と脳のメカニズム(久保田競編)、ミネルヴァ書房、pp.21-51.

論文

一英文一

- 1) Masataka, N. (1994): Lack of correlation between body size and frequency of vocalizations in young female Japanese macaque (*Macaca fuscata*). *Folia Primatol.*, 63:115-118.
- 2) Masataka, N. & Bloom, K. (1994): Acoustic properties that determine adults' preferences for 3-month-old infant vocalizations. *Infant Behav. Dev.*, 17:461-464.

報告・その他

一英文一

- 1) Kubota, K. & Nakamura, K. (1994): Visual memory-related neuronal activity of the monkey temporal pole. *Extended Abstracts Book of International Symposium "Dynamics of Neural Processing"*, (Washington, D.C., June, 1994). pp.152-159.

一和文一

- 1) 中村克樹 (1994) : 記憶とオシレーション. 実験医学(増刊), 12:152-159.

1) 行動発現分野